

3. 5 社会福祉学専攻

(1) 教育課程

社会福祉学専攻の教育課程は、教育方針に従いながら専門の知識と技術を教授すると共に、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い豊かな人間性を涵養することをねらいとして、専門共通科目と2領域(生活支援領域、自立支援領域)の専門科目から構成されている。

社会福祉学専攻 教育課程(カリキュラム)		概 要
専門共通科目		保健福祉学の基礎理論や関連諸科学の専門的知識を修得する。1年次から4年次までの小グループによる一貫教育を通して、研究方法を修得すると共に、卒業論文の執筆にむけた指導を行う。
専 門 科 目	生活支援領域科目	主に、社会福祉士に必要な社会福祉学の専門的知識及びソーシャルワークの方法・技術を修得する。
	自立支援領域科目	主に、介護福祉士に必要な介護福祉学の専門的知識及びケアワークの方法・技術を修得する。

(2) 履修上の留意点

社会福祉学専攻における学部教育科目は、資格取得のための科目と、スペシャリストとして必要な専門基礎に関する科目及びより専門性を高めるための科目からなる。将来の進路としては、社会福祉行政、児童施設、高齢者施設、障害者施設、病院、福祉関連企業などがある。履修計画では、このことを考えて、必修科目や資格取得科目だけでなく、専門分野に沿った選択科目を幅広く履修し、専門職としての見識や能力をより高めるようにする。

ただし、介護福祉士受験資格を得ることを目指して履修している学生以外は、自立支援領域科目の内、介護福祉士受験資格取得のための科目の「介護」「医療的ケア」領域の科目は履修できない。

(3) 研究ゼミナールの履修要件

4年次には必修科目として、卒業論文に取り組むための「研究ゼミナール」を課している。「研究ゼミナール」の履修要件は、4年次に、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することにより卒業要件単位(共通教育科目と学部教育科目を総合した124単位)を満たすものとする。

(4)社会福祉学専攻 授業科目

授業科目の名称	授業の方法	担当教員	開講年次及び 必修選択の別				開講 時間数	開講 単位数	卒業要件 単位数	
			1	2	3	4				
専 門 共 通 科 目	保健福祉学入門	講義	中村(光)・村社	◎				30	2	96 単 位
	社会福祉原論	講義	井村	◎				30	2	
	地域福祉論	講義	井村		○			30	2	
	社会保障論Ⅰ	講義	岩満	○				30	2	
	高齢者福祉論Ⅰ	講義	桐野	○				30	2	
	障害者福祉論	講義	坂野	○				30	2	
	児童福祉論Ⅰ	講義	周防	○				30	2	
	児童福祉論Ⅱ	講義	周防		○			30	2	
	社会福祉施設経営論	講義	井上			○		30	2	
	ソーシャルワーク論	講義	村社	◎				30	2	
	人体の構造と機能Ⅰ	講義	藤井	◎				30	2	
	身体機能と障害	講義	中村(光)・高戸		○			30	2	
	知的発達と障害	講義	中村(光)		○			30	2	
	教育基礎論	講義	佐藤(和)	○				30	2	
	臨床心理学	講義	樂木			○		30	2	
	地域保健福祉演習	演習	二宮・久保田・坂野・未定			○		30	1	
	入門ゼミナール〔隔週〕	演習	学科教員	◎				30	1	
	基礎ゼミナール〔隔週〕	演習			◎			30	1	
専門ゼミナール〔隔週〕	演習				◎		30	1		
研究ゼミナール	演習					◎	120	4		
専 門 科 目	社会理論と社会システム	講義	近藤	◎				30	2	
	発達心理学	講義	樂木		○			30	2	
	公衆衛生	講義	藤井		○			30	2	
	社会病理学	講義	近藤		○			30	2	
	社会福祉発達史	講義	井村	○				30	2	
	社会保障論Ⅱ	講義	岩満		○			30	2	
	高齢者福祉論Ⅱ	講義	※中田		○			30	2	
	社会福祉政策論	講義	岩満			○		30	2	
	社会福祉調査論	講義	近藤・桐野			○		30	2	
	福祉専門職論	講義	竹本	○				30	2	
	ソーシャルワークⅠ	講義	竹本		○			30	2	
	ソーシャルワークⅡ	講義	村社			○		30	2	
	ソーシャルワークⅢ	講義	竹本			○		30	2	
	社会福祉調査演習	演習	近藤・桐野			○		30	1	
	地域組織論	講義	井村		○			30	2	
	福祉行政と福祉計画	講義	井村		○			30	2	
	精神障害者福祉論	講義	坂野		○			30	2	
	エルゴノミクスの基礎	講義	高戸	○				30	2	
	ユニバーサルデザインの理論と実践	講義	高戸			○		30	2	
	生活支援と福祉工学	講義	高戸		○			30	2	
	保健福祉実験演習	演習	高戸・澤田			○		30	1	
	家族福祉論	講義	周防			○		30	2	
	国際家族政策論	講義	近藤			○		30	2	
	国際福祉論	講義	近藤		○			30	2	
	公的扶助論	講義	岩満			○		30	2	
	保健医療サービス	講義	竹本			○		30	2	
	就労支援サービス	講義	村社			○		15	1	
	権利擁護・成年後見制度	講義	桐野			○		30	2	
	司法福祉論	講義	※藤原			○		15	1	
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	演習	竹本 他		○			60	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	演習	村社 他			○		60	2	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	演習	村社 他				○	30	1	
チームガバナビリティ演習	演習	中村(光) 他			○		30	1		
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	実習	竹本 他		○			45	1		
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	実習	竹本 他			○		45	1		
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	実習	竹本 他			○		45	1		
ソーシャルワーク実習	実習	竹本 他			○		180	4		

授業科目の名称	授業の方法	担当教員	開講年次及び必修選択の別				開講時間数	開講単位数	卒業要件単位数
			1	2	3	4			
老年科学	講義	中村(光)・澤田		○			30	2	96 単 位
老年医学	講義	藤井	○				30	2	
認知症論	講義	中村(光)		○			30	2	
認知症ケア論	講義	佐藤(ゆ)			○		30	2	
人体の構造と機能Ⅱ	講義	藤井	○				30	2	
精神保健	講義	坂野			○		30	2	
介護原論	講義	佐藤(ゆ)	○				30	2	
介護福祉実験演習	演習	高戸・澤田			○		30	1	
生活とエルゴノミクス	講義	高戸		○			30	2	
介護管理	講義	藤井				○	15	1	
介護福祉経営論	講義	※高橋(和)				○	15	1	
生活維持・活性論	講義	※横田		○			30	2	
コミュニケーション技術論Ⅰ	演習	佐藤(ゆ)他		○			30	1	
コミュニケーション技術論Ⅱ	演習	佐藤(ゆ)他			○		30	1	
生活支援技術Ⅰ	演習	趙 他	○				30	1	
生活支援技術Ⅱ	演習	趙 他	○				30	1	
生活支援技術Ⅲ	演習	原野 他	○				30	1	
生活支援技術Ⅳ	演習	未定	○				30	1	
生活支援技術Ⅴ	演習	趙 他	○				60	2	
生活支援技術Ⅵ	演習	原野 他	○				30	1	
福祉用具の活用技術と理論	演習	佐藤(ゆ)	○				30	1	
家政学演習	演習	山下・※治部		○			30	1	
住環境科学演習	演習	高戸・※小山			○		30	1	
介護過程総論	演習	原野	○				30	1	
介護過程Ⅰ(基礎)	演習	原野 他		○			30	1	
介護過程Ⅱ(応用)	演習	原野 他		○			30	1	
介護過程Ⅲ(実践)	演習	原野 他			○		60	2	
介護総合演習(導入)	演習	趙 他		○			30	1	
介護総合演習Ⅰ	演習	趙 他		○			30	1	
介護総合演習Ⅱ	演習	原野他			○		30	1	
介護総合演習Ⅲ	演習	佐藤(ゆ)他				○	30	1	
介護福祉実習Ⅰ	実習	趙 他		○			90	2	
介護福祉実習Ⅱ	実習	原野他		○			180	4	
介護福祉実習Ⅲ	実習	佐藤(ゆ)他			○		180	4	
医療的ケアⅠ	講義	原野	○				20	1	
医療的ケアⅡ	講義	藤井	○				20	1	
医療的ケアⅢ	講義	原野・藤井			○		20	1	
医療的ケア演習Ⅰ	演習	原野他			○		30	1	
医療的ケア演習Ⅱ(実地研修)	演習	原野他			○		60	2	
多文化介護論	講義	趙	○				30	2	

「◎」は必修科目、「○」は選択科目、「※」は非常勤講師
 資格取得に関しては別表を参照のこと。
 学部教育科目の卒業要件単位数 96単位
 卒業要件単位数 124単位(共通教育科目の卒業要件28単位を含む)

(5) 資格取得

社会福祉学専攻では、社会福祉士の受験資格(表1)と社会福祉主事任用資格(表3)が取得できる。これに加えて、介護福祉士の受験資格(表2)が取得できる。なお、介護福祉士の受験資格のみを単独で取得することもできる。ただし、介護福祉士受験資格の最大定員は30名であるため、希望者が定員を超えた場合には選択できない場合もある。介護福祉士受験資格の取得を希望する学生は、**1年次第1Q終了前に決定し、1年次第2Qから**自立支援領域の専門科目を履修する。

社会福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法」で位置づけられた、社会福祉業務に携わる人の国家資格である。本学科において、厚生労働省の告示により指定されている所定の授業科目をすべて単位取得し、年1回2月に実施される国家試験に合格すれば、社会福祉士として登録できる。「社会福祉士及び介護福祉士法」には「社会福祉士とは、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを業とする者」と規定されている。

介護福祉士の資格は、「社会福祉士及び介護福祉士法」で位置づけられた、介護業務に携わる人の国家資格である。本学科において、厚生労働省の告示により指定されている所定の授業科目をすべて単位取得し、年1回1月に実施される国家試験に合格すれば、介護福祉士として登録できる。「社会福祉士及び介護福祉士法」では、「介護福祉士とは、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護(喀痰吸引その他のその者が日常生活を営むのに必要な行為であって、医師の指示の下に行われるもの(厚生労働省令で定めるものに限る。)を含む。)を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者」と規定されている。

社会福祉主事は、「社会福祉法」に規定された資格で、基本的には、都道府県、市町村の行政職や福祉職の公務員試験に合格し、福祉事務所などのケースワーカーに採用される場合に活きる任用資格である。また、一定の社会福祉施設の生活支援員等の資格にも準用される。この資格を得るためには、「社会福祉主事に関する指定科目」(表3 「社会福祉主事に関する指定科目」)のうち、いずれか3科目を取得する必要がある。

表1 社会福祉士の受験資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

厚生労働省告示に定める科目	保健福祉学科開講科目				
	科目	科目	受験資格科目	国家試験科目	時間数
人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能 I	3科目のうち 1科目 (※)	○	○	30
心理学理論と心理的支援	心理学		○	○	30
社会理論と社会システム	社会理論と社会システム		○	○	30
現代社会と福祉	社会福祉原論	○	○	○	30
	社会福祉政策論	○	○	○	30
社会調査の基礎	社会福祉調査論	○	○	○	30
相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワーク論	○	○	○	30
	福祉専門職論	○	○	○	30
相談援助の理論と方法	ソーシャルワーク I	○	○	○	30
	ソーシャルワーク II	○	○	○	30
	ソーシャルワーク III	○	○	○	30
	社会福祉調査演習	○	○	○	30
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	○	○	○	30
	地域組織論	○	○	○	30
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	○	○	○	30
福祉サービスの組織と経営	社会福祉施設経営論	○	○	○	30
社会保障	社会保障論 I	○	○	○	30
	社会保障論 II	○	○	○	30
高齢者に対する支援と 介護保険制度	高齢者福祉論 I	○	○	○	30
	高齢者福祉論 II	○	○	○	30
障害者に対する支援と 障害者自立支援制度	障害者福祉論	○	○	○	30
児童や家庭に対する支援と 児童・家庭福祉制度	児童福祉論 I	○	○	○	30
	児童福祉論 II	○	○	○	30
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	○	○	○	30
保健医療サービス	保健医療サービス	○	○	○	30
就労支援サービス	就労支援サービス	3科目のうち 1科目 (※)	○	○	15
権利擁護と成年後見制度	権利擁護・成年後見制度		○	○	30
更生保護制度	司法福祉論		○	○	15
相談援助演習	ソーシャルワーク演習 I	○	○	○	60
	ソーシャルワーク演習 II	○	○	○	60
	ソーシャルワーク演習 III	○	○	○	30
相談援助実習指導	ソーシャルワーク実習指導 I	○	○	○	45
	ソーシャルワーク実習指導 II	○	○	○	45
	ソーシャルワーク実習指導 III	○	○	○	45
相談援助実習	ソーシャルワーク実習	○	○	○	180

※受験資格科目としてはこのように定められているが、すべて国家試験科目であり履修すること。

表2 介護福祉士の受験資格を取得するために必要な授業科目及び単位数

社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則 別表第4に定められる科目						備 考	
領域	教育内容	指定時間数	授業科目等の名称	配当単位数	配当時間数		
人間と社会	人間の尊厳と自立	30	社会福祉原論	2	30	左記授業科目を必ず履修し、修得すること。 左記授業科目の中の単位数に関わらず指定時間数240時間以上に相当する科目を選択し、修得すること。	
	人間関係とコミュニケーション	30	ソーシャルワーク I	2	30		
	社会の理解	60	高齢者福祉論 I	2	30		
			地域福祉論	2	30		
	人間と社会に関する選択科目		社会理論と社会システム	2	30		
			権利擁護・成年後見制度	2	30		
			自然科学要論	2	30		
			社会保障論 I	2	30		
介護	介護の基本	180	介護原論	2	30	左記授業科目を必ず履修し、修得すること。	
			介護福祉実験演習	1	30		
			多文化介護論	2	30		
			生活とエルゴノミクス	2	30		
			介護管理	1	15		
			介護福祉経営論	1	15		
				生活維持・活性論	2		30
	コミュニケーション技術	60	コミュニケーション技術論 I	1	30		
			コミュニケーション技術論 II	1	30		
	生活支援技術	300	福祉用具の活用技術と理論	1	30		
			生活支援技術 I	1	30		
			生活支援技術 II	1	30		
			生活支援技術 III	1	30		
			生活支援技術 IV	1	30		
			生活支援技術 V	2	60		
			生活支援技術 VI	1	30		
			家政学演習	1	30		
				住環境科学演習	1		30
	介護過程	150	介護過程総論	1	30		
			介護過程 I (基礎)	1	30		
			介護過程 II (応用)	1	30		
			介護過程 III (実践)	2	60		
	介護総合演習	120	介護総合演習 (導入)	1	30		
			介護総合演習 I	1	30		
			介護総合演習 II	1	30		
			介護総合演習 III	1	30		
	介護実習	450	介護福祉実習 I	2	90		
介護福祉実習 II			4	180			
介護福祉実習 III			4	180			
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	60	老年科学	2	30		
			老年医学	2	30		
	認知症の理解	60	認知症論	2	30		
			認知症ケア論	2	30		
	障害の理解	60	身体機能と障害	2	30		
			知的発達と障害	2	30		
	こころとからだのしくみ	120	人体の構造と機能 I	2	30		
人体の構造と機能 II			2	30			
精神保健			2	30			
			心理学	2	30		
医療的ケア	医療的ケア	50	医療的ケア I	1	20	医療的ケアのうち、医療的ケア演習 II は選択とする。	
			医療的ケア II	1	20		
			医療的ケア III	1	20		
			医療的ケア演習 I	1	30		
			医療的ケア演習 II (実地研修)	2	60		
	所定回数						
(注) 1. 介護福祉士資格取得を希望する者は、介護福祉コースに在籍し、上記に定める科目のうち「医療的ケア演習 II」を除く全ての科目及び単位を修得することにより介護福祉士国家試験受験資格を得ることができる。							
2. 介護福祉コース以外の学生は、この表の領域「介護」「医療的ケア」の授業科目を履修できない。							
3. 上記に定める科目の出席時間数が指定規則に定める時間数の3分の2(ただし、介護実習については5分の4)に満たない者については、当該科目の単位を認定しない。							
4. 介護福祉コースへの転学(編入学を含む。)及び移籍は認めない。							
※法令等の改正により、変更が生じた場合には別途通知する。							

表3 社会福祉主事に関する指定科目

指定科目	保健福祉学科開講科目	指定科目	保健福祉学科開講科目
社会福祉概論	社会福祉原論	法学	法学(共通教育科目)
社会福祉事業史	社会福祉発達史	民法	なし
社会福祉援助技術論	ソーシャルワーク論	行政法	なし
社会福祉調査論	社会福祉調査論	経済学	経済学(共通教育科目)
社会福祉施設経営論	社会福祉施設経営論	社会政策	なし
社会福祉行政論	福祉行政財政と福祉計画	経済政策	なし
社会保障論	社会保障論Ⅰ、Ⅱ	心理学	心理学(共通教育科目)
公的扶助論	公的扶助論	社会学	社会理論と社会システム
児童福祉論	児童福祉論Ⅰ、Ⅱ	教育学	なし
家庭福祉論	なし	倫理学	倫理学(共通教育科目)
保育理論	保育原理Ⅰ、Ⅱ	公衆衛生学	公衆衛生
身体障害者福祉論	障害者福祉論	医学一般	人体の構造と機能Ⅰ
知的障害者福祉論	知的発達と障害	リハビリテーション論	なし
精神障害者保健福祉論	精神障害者福祉論	看護学	看護の世界(他学科教育科目)
老人福祉論	高齢者福祉論Ⅰ、Ⅱ	介護概論	介護原論
医療社会事業論	なし	栄養学	栄養学総論(他学科教育科目)
地域福祉論	地域福祉論	家政学	なし

(6) 学外実習科目の履修要件

以下の実習科目を履修するためには、それぞれ以下の要件を満たす必要がある。また、事前に健康診断、麻疹抗体検査、腸内細菌検査等の受診が必要である。

①ソーシャルワーク実習

3年次にソーシャルワーク実習を履修する学生は、以下のすべての要件を満たすことを原則とする。

- ・2年次までに開講されている社会福祉士国家試験受験科目がすべて単位認定されていること。
- ・2年次開講の社会福祉士国家試験受験科目のうち演習および実習指導に関する科目において原則欠席がなく、授業の中で指示された所定の提出物(レポート等を含む)の提出がすべて行われていること。
- ・あらゆる領域・分野の対象者に関心を持って勉学に勤しみ、資格取得の意欲をもって実習に臨むことができること。
- ・伝染性疾患を有しない者、その他実習に支障のない者であること。

②介護福祉実習Ⅰ、介護福祉実習Ⅱ、介護福祉実習Ⅲ

各実習を履修する場合は、以下の要件を満たすことを原則とする。

- ・介護福祉実習Ⅰ、介護福祉実習Ⅱ、介護福祉実習Ⅲのそれぞれの実習までに開講されている介護福祉士国家試験受験科目のうち、介護領域の科目が履修及び認定されていることを原則とする。
- ・介護福祉士国家試験受験科目については、原則欠席がないこととする。
- ・学校保健法による出席停止に該当しないこと、その他実習に支障のない健康状態であることとする。

(白紙)

カテゴリー	学部教育科目									
	自立支援領域科目									
	介護の基本									
	人間と社会	介護の基本	コミュニケーション技術	生活支援技術	介護過程	介護総合演習	介護総合演習	「こころからだのしくみ」	医療的ケア	
1年10										
1年20	介護原論		生活支援技術Ⅰ	生活支援技術Ⅱ	介護過程総論					
1年30	多文化介護論			生活支援技術Ⅲ	生活支援技術Ⅳ	生活支援技術Ⅴ				
1年40			福祉用具の活用技術と理論	生活支援技術Ⅲ	生活支援技術Ⅵ				医療的ケアⅠ	医療的ケアⅡ
2年10			コミュニケーション技術Ⅰ			介護総合演習(導入)				
2年20						介護福祉実習Ⅰ				
2年30		生活維持・活性論			介護過程Ⅰ(基礎)	介護総合演習Ⅰ				
2年40		エルゴノミクス	生活と	家政学演習	介護過程Ⅱ(応用)	介護福祉実習Ⅱ				
3年10			コミュニケーション技術Ⅱ	住環境科学演習		介護総合演習Ⅱ			医療的ケアⅢ	
3年20										
3年30					介護過程Ⅲ(実践)	介護福祉実習Ⅲ			医療的ケア演習Ⅰ	
3年40		介護福祉実験演習							医療的ケア演習Ⅱ	
4年10		介護管理	介護福祉経産論			介護総合演習Ⅲ				
4年20										
4年30										
4年40										

(8) 履修モデル例

医療機関のソーシャルワーカーをめざす場合

医療機関のソーシャルワーカーは、保健医療分野でソーシャルワークを行う福祉専門職で、傷病に伴って生じる生活上の問題・課題を抱える人の援助を行っています。そのため、保健・医療の知識はもちろんのこと患者の心理や社会的背景を理解する力が必要となってきます。そこで、社会福祉士受験資格科目以外にも社会病理学、チームガバナビリティ演習、認知症ケア論などを学び、幅広い知識を身につけて、ソーシャルワーカーとしての能力を高めていくよう意識した取り組みをするとよいでしょう。

共通教育科目							
1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位
大学で学ぶ	1	ELP 5	1				
フレッシュマンセミナー	1	ELP 6	1				
人文・社会科学要論	2						
心理学☆	2						
自然科学要論	2						
おかやまボランティア論	1						
おかやまを学ぶ	1						
ELP 1	1						
ELP 2	1						
ELP 3	1						
ELP 4	1						
人文・社会科学より	4						
自然科学より	2						
健康科学より	4						
全カテゴリーより	2						
小計	26	小計	2	小計	0	小計	0
						小計	28
備考							
・ 共通教育選択科目は12単位以上を修得する（斜体活字は選択科目を示す）。太字は必修科目を示す。							
【人文・社会科学】から4単位は、「経済学」、「法学」を履修することが望ましい。							
【自然科学】から2単位は、「コンピュータ演習Ⅰ」、「コンピュータ演習Ⅱ」を履修することが望ましい。							
【健康科学】から4単位のうち、2単位は「健康心理学」を履修することが望ましい。							
【全カテゴリー】から2単位のうち、1単位は海外研修（保健福祉学）を履修することが望ましい。							

学部教育科目							
1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位
入門ゼミナール	1	基礎ゼミナール	1	専門ゼミナール	1	研究ゼミナール	4
保健福祉学入門	2	ソーシャルワークⅠ☆	2	社会福祉施設経営論☆	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ☆	1
人体の構造と機能Ⅰ☆	2	地域福祉論☆	2	公的扶助論☆	2		
社会福祉原論☆	2	児童福祉論Ⅱ☆	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ☆	1		
ソーシャルワーク論☆	2	高齢者福祉論Ⅱ☆	2	ソーシャルワークⅡ☆	2		
社会理論と社会行動☆	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ☆	1	就労支援サービス☆	1		
障害者福祉論☆	2	ソーシャルワーク演習Ⅰ☆	2	司法福祉論☆	1		
児童福祉論Ⅰ☆	2	地域組織論☆	2	社会福祉政策論☆	2		
高齢者福祉論Ⅰ☆	2	福祉行財政と福祉計画☆	2	保健医療サービス☆	2		
福祉専門職論☆	2	社会保障論Ⅱ☆	2	権利擁護・成年後見制度☆	2		
社会保障論Ⅰ☆	2	発達心理学	2	ソーシャルワーク演習Ⅱ☆	2		
社会福祉発達史	2	社会病理学	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ☆	1		
老年医学	2	公衆衛生	2	社会福祉調査論☆	2		
人体の構造と機能Ⅱ	2	知的発達と障害	2	ソーシャルワークⅢ☆	2		
		精神障害者福祉論	2	社会福祉調査演習☆	1		
		国際福祉論	2	ソーシャルワーク実習☆	[4]		
				臨床心理学	2		
				国際家族政策論	2		
				家族福祉論	2		
				精神保健	2		
				認知症ケア論	2		
				チームバリエーション演習	1		
小計	27	小計	30	小計	35	小計	5
小計							97
備考 <共通教育科目> 28単位 + <学部教育科目> 97単位 (+実習4単位) = 125単位 (+4単位) <合計129単位>							
<1年次> 53単位、<2年次> 32単位、<3年次> 35単位 (+4単位)、<4年次> 5単位							
・専門共通科目、専門科目から96単位以上を修得すること。							
・ 立体太字 は卒業必修科目を示す。							
・☆マークがついている科目は社会福祉士受験資格科目である。(61単位+実習4単位、うち必修科目は10単位)							
・斜体活字は、医療機関のソーシャルワーカーをめざす場合に履修することが望ましい選択科目を示す。							
・[]は実習科目の単位を示し、履修小計に含んでいない。(履修上の注意参照)							
履修上の注意							
卒業要件は、共通教育科目(28単位)と学部共通科目(96単位)、計124単位である。							
1年間の単位の上限は56単位である。							
実習および集中講義は単位の上限の計算に含まない。							
4年次の研究ゼミナール履修は、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することで卒業要件単位を満たすことを条件とする。							

国家・地方公務員（福祉事務所・児童相談所等）や社会福祉協議会の ソーシャルワーカーをめざす場合

国家・地方公務員や社会福祉協議会のソーシャルワーカーは、国の保護観察所、更生保護施設や都道府県庁、児童相談所、市町村の福祉事務所、社会福祉協議会で保護教官、ケースワーカー、児童福祉司などとして、更生援護や障害者・高齢者・児童の相談・調査・指導などをを行います。そのため、行政福祉や地域福祉の知識だけでなく国内外の社会情勢を理解する力、制度・サービスが開発できる力、他職種と連携できる力などが求められます。そこで社会福祉士受験資格科目以外にもエルゴノミクス、国際福祉論、臨床心理学などを学び、幅広い知識を身につけて、ソーシャルワーカーとしての能力を高めていくよう意識した取り組みをするといいでしょう。

共通教育科目							
1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位
大学で学ぶ	1	ELP5	1				
フレッシュマンセミナー	1	ELP6	1				
人文・社会科学要論	2						
心理学☆	2						
自然科学要論	2						
おかやまボランティア論	1						
おかやまを学ぶ	1						
ELP1	1						
ELP2	1						
ELP3	1						
ELP4	1						
人文・社会科学より	4						
自然科学より	2						
健康科学より	4						
全カテゴリーより	2						
小計	26	小計	2	小計	0	小計	0
小計							28
備考							
・ 共通教育選択科目は12単位以上を修得する（斜体活字は選択科目を示す）。太字は必修科目を示す。							
【人文・社会科学】から4単位は、「経済学」、「法学」を履修することが望ましい。							
【自然科学】から2単位は、「コンピュータ演習Ⅰ」、「コンピュータ演習Ⅱ」を履修することが望ましい。							
【健康科学】から4単位のうち、2単位は「健康心理学」を履修することが望ましい。							
【全カテゴリー】から2単位のうち、1単位は海外研修（保健福祉学）を履修することが望ましい。							

学部教育科目							
1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位
入門ゼミナール	1	基礎ゼミナール	1	専門ゼミナール	1	研究ゼミナール	4
保健福祉学入門	2	ソーシャルワークⅠ☆	2	社会福祉施設経営論☆	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ☆	1
人体の構造と機能Ⅰ☆	2	地域福祉論☆	2	公的扶助論☆	2		
社会福祉原論☆	2	児童福祉論Ⅱ☆	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ☆	1		
ソーシャルワーク論☆	2	高齢者福祉論Ⅱ☆	2	ソーシャルワークⅡ☆	2		
社会理論と社会福祉☆	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ☆	1	就労支援サービス☆	1		
障害者福祉論☆	2	ソーシャルワーク演習Ⅰ☆	2	司法福祉論☆	1		
児童福祉論Ⅰ☆	2	地域組織論☆	2	社会福祉政策論☆	2		
高齢者福祉論Ⅰ☆	2	福祉行財政と福祉計画☆	2	保健医療サービス☆	2		
福祉専門職論☆	2	社会保障論Ⅱ☆	2	権利擁護・成年後見制度☆	2		
社会保障論Ⅰ☆	2	発達心理学	2	ソーシャルワーク演習Ⅱ☆	2		
社会福祉発達史	2	社会病理学	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ☆	1		
エルゴノミクスの基礎	2	身体機能と障害	2	社会福祉調査論☆	2		
		知的発達と障害	2	ソーシャルワークⅢ☆	2		
		国際福祉論	2	社会福祉調査演習☆	1		
		生活支援と福祉工学	2	ソーシャルワーク実習☆	[4]		
				臨床心理学	2		
				ユニバーサルデザイン	2		
				の理論と実践			
				国際家族政策論	2		
				家族福祉論	2		
				精神保健	2		
小計	25	小計	30	小計	34	小計	5
小計							94
備考 <共通教育科目> 28単位 + <学部教育科目> 94単位 (+実習4単位) = 122単位 (+4単位) <合計126単位>							
<1年次> 51単位、<2年次> 32単位、<3年次> 34単位 (+4単位)、<4年次> 5単位							
・ 専門共通科目、専門科目から96単位以上を修得すること。							
・ 立体太字 は卒業必修科目を示す。							
・ ☆マークがついている科目は社会福祉士受験資格科目である。(61単位+実習4単位、うち必修科目は10単位)							
・ 斜体活字 は、国家・地方公務員(福祉事務所・児童相談所等)や社会福祉協議会のソーシャルワーカーをめざす場合に履修することが望ましい選択科目を示す。							
・ []は実習科目の単位を示し、履修小計に含んでいない。(履修上の注意参照)							
履修上の注意							
卒業要件は、共通教育科目(28単位)と学部共通科目(96単位)、計124単位である。							
1年間の単位の上限は56単位である。							
実習および集中講義は単位の上限の計算に含まない。							
4年次の研究ゼミナール履修は、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することで卒業要件単位を満たすことを条件とする。							

高齢者・障害者福祉機関のソーシャルワーカーをめざす場合

高齢者・障害者福祉機関のソーシャルワーカーは、高齢者・障害者の生活相談や施設入退所の相談や手続き、ケアプランの作成支援などを行います。そのために、高齢者・障害者福祉のほか保健・医療・司法の幅広い知識が求められます。そこで社会福祉士受験資格科目以外にも公衆衛生、精神障害者福祉論、生活支援と福祉工学などを学び、ソーシャルワーカーとしての能力を高めていくよう意識した取り組みをするといいでしょう。

共通教育科目							
1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位
大学で学ぶ	1	ELP5	1				
フレッヂマンセミナー	1	ELP6	1				
人文・社会科学要論	2						
心理学☆	2						
自然科学要論	2						
おかやまボランティア論	1						
おかやまを学ぶ	1						
ELP1	1						
ELP2	1						
ELP3	1						
ELP4	1						
人文・社会科学より	4						
自然科学より	2						
健康科学より	4						
全カテゴリーより	2						
小計	26	小計	2	小計	0	小計	0
小計							28
備考							
<p>・共通教育選択科目は12単位以上を修得する（斜体活字は選択科目を示す）。太字は必修科目を示す。</p> <p>【人文・社会科学】から4単位は、「経済学」、「法学」を履修することが望ましい。</p> <p>【自然科学】から2単位は、「コンピュータ演習Ⅰ」、「コンピュータ演習Ⅱ」を履修することが望ましい。</p> <p>【健康科学】から4単位のうち、2単位は「健康心理学」を履修することが望ましい。</p> <p>【全カテゴリー】から2単位のうち、1単位は海外研修（保健福祉学）を履修することが望ましい。</p>							

学部教育科目							
1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位
入門ゼミナール	1	基礎ゼミナール	1	専門ゼミナール	1	研究ゼミナール	4
保健福祉学入門	2	ソーシャルワークⅠ☆	2	社会福祉施設経営論☆	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ☆	1
人体の構造と機能Ⅰ☆	2	地域福祉論☆	2	公的扶助論☆	2		
社会福祉原論☆	2	児童福祉論Ⅱ☆	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ☆	1		
ソーシャルワーク論☆	2	高齢者福祉論Ⅱ☆	2	ソーシャルワークⅡ☆	2		
社会理論と社会システム☆	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ☆	1	就労支援サービス☆	1		
障害者福祉論☆	2	ソーシャルワーク演習Ⅰ☆	2	司法福祉論☆	1		
児童福祉論Ⅰ☆	2	地域組織論☆	2	社会福祉政策論☆	2		
高齢者福祉論Ⅰ☆	2	福祉行財政と福祉計画☆	2	保健医療サービス☆	2		
福祉専門職論☆	2	社会保障論Ⅱ☆	2	権利擁護・成年後見制度 ☆	2		
社会保障論Ⅰ☆	2	発達心理学	2	ソーシャルワーク演習Ⅱ☆	2		
社会福祉発達史	2	社会病理学	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ☆	1		
エルゴノミクスの基礎	2	公衆衛生	2	社会福祉調査論☆	2		
老年医学	2	知的発達と障害	2	ソーシャルワークⅢ☆	2		
人体の構造と機能Ⅱ	2	精神障害者福祉論	2	社会福祉調査演習☆	1		
		国際福祉論	2	ソーシャルワーク実習☆	[4]		
		生活支援と福祉工学	2	臨床心理学	2		
		老年科学	2	ユニバーサルデザインの理論と実践	2		
		認知症論	2	国際家族政策論	2		
				家族福祉論	2		
				精神保健	2		
				保健福祉実験演習	1		
				認知症ケア論	2		
小計	29	小計	36	小計	37	小計	5
						小計	10
							7
<p>備考 <共通教育科目> 28単位 + <学部教育科目> 107単位 (+実習4単位) = 135単位 (+4単位) <合計139単位></p> <p><1年次> 55単位、<2年次> 38単位、<3年次> 37単位 (+4単位)、<4年次> 5単位</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門共通科目、専門科目から96単位以上を修得すること。 ・ 立体太字は卒業必修科目を示す。 ・ ☆マークがついている科目は社会福祉士受験資格科目である。(61単位+実習4単位、うち必修科目は10単位) ・ <i>斜体活字</i>は、高齢者・障害者福祉機関のソーシャルワーカーをめざす場合に履修することが望ましい選択科目を示す。 ・ []は実習科目の単位を示し、履修小計に含んでいない。(履修上の注意参照) 							
<p>履修上の注意</p> <p>卒業要件は、共通教育科目(28単位)と学部共通科目(96単位)、計124単位である。</p> <p>1年間の単位の上限は56単位である。</p> <p>実習および集中講義は単位の上限の計算に含まない。</p> <p>4年次の研究ゼミナール履修は、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することで卒業要件単位を満たすことを条件とする。</p>							

高齢者・障害者施設従事者をめざす場合

高齢者・障害者福祉機関のソーシャルワーカーを目指す学生のなかで、介護福祉の知識や技術を身に付けたい学生や、高齢者・障害者施設の介護福祉職も検討している学生は、社会福祉学系の科目に加え、生活支援、介護過程等の「介護領域」、認知症や障害の理解等の「こころとからだのしくみ」、「医療的ケア」等を履修し、専門的知識や技術を身につけるとよいでしょう。

共通教育科目							
1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位
大学で学ぶ	1	ELP5	1				
フレッシュマンセミナー	1	ELP6	1				
人文・社会科学要論	2	人文・社会科学より	4				
心理学	2	健康科学より	4				
*自然科学要論	2	自然科学より	2				
おかやまボランティア論	1	全カテゴリーより	2				
おかやまを学ぶ	1						
ELP1	1						
ELP2	1						
ELP3	1						
ELP4	1						
小計	14	小計	14	小計	0	小計	0
小計							29
備考							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教育選択科目は12単位以上を修得すること。 ・ 立体活字は必修科目、斜体活字は選択科目を示す。 【人文・社会科学】から4単位は「日本国憲法」、「共生社会論A」を履修することが望ましい。 【自然科学】から2単位は、「コンピュータ演習Ⅰ」、「コンピュータ演習Ⅱ」を履修することが望ましい。 【健康科学】から4単位は、「健康心理学」、「応用健康科学論C」を履修することが望ましい。 【全カテゴリー】から2単位は「海外研修（保健福祉学）」、「おかやまボランティア演習」を履修することが望ましい。 ・ 集中講義は単位の上限の計算に含まない。 							

学部教育科目							
1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位
入門ゼミナール	1	基礎ゼミナール	1	専門ゼミナール	1	研究ゼミナール	4
保健福祉学入門	2	ソーシャルワークⅠ	2	社会福祉施設経営論	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ	1
人体の構造と機能Ⅰ	2	地域福祉論	2	公的扶助論	2	*介護管理	(1)
社会福祉原論	2	児童福祉論Ⅱ	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	*介護福祉経営論	(1)
ソーシャルワーク論	2	高齢者福祉論Ⅱ	2	ソーシャルワークⅡ	2	*介護総合演習Ⅲ	(1)
社会理論と社会システム	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	就労支援サービス	1		
障害者福祉論	2	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	司法福祉論	1		
児童福祉論Ⅰ	2	地域組織論	2	社会福祉政策論	2		
高齢者福祉論Ⅰ	2	福祉行財政と福祉計画	2	保健医療サービス	2		
福祉専門職論	2	社会保障論Ⅱ	2	権利擁護・成年後見制度	2		
社会保障論Ⅰ	2	*知的発達と障害	(2)	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2		
*身体機能と障害	(2)	*介護総合演習(導入)	(1)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1		
*介護原論	(2)	*コミュニケーション技術論Ⅰ	(1)	社会福祉調査論	2		
*多文化介護論	(2)	*老年科学	(2)	ソーシャルワークⅢ	2		
*生活支援技術Ⅰ	(1)	*認知症論	(2)	社会福祉調査演習	1		
*生活支援技術Ⅱ	(1)	*介護過程Ⅰ	(1)	ソーシャルワーク実習	[4]		
*生活支援技術Ⅲ	(1)	*介護総合演習Ⅰ	(1)	*介護総合演習Ⅱ	(1)		
*生活支援技術Ⅳ	(1)	*生活維持・活性論	(2)	*介護福祉実験演習	(1)		
*生活支援技術Ⅴ	(2)	*介護過程Ⅱ	(1)	*コミュニケーション技術論Ⅱ	(1)		
*生活支援技術Ⅵ	(1)	*生活とエルゴノミクス	(2)	*住環境科学演習	(1)		
*人体の構造と機能Ⅱ	(2)	*家政学演習	(1)	*認知症ケア論	(2)		
*医療的ケアⅠ	(1)	*介護福祉実習Ⅰ	[2]	*精神保健	(2)		
*医療的ケアⅡ	(1)	*介護福祉実習Ⅱ	[4]	*介護過程Ⅲ	(2)		
*福祉用具の活用技術と理論	(1)	<i>精神障害者福祉論</i>	2	*医療的ケアⅢ	(1)		
*老年医学	(2)			*医療的ケア演習Ⅰ	(1)		
*介護過程総論	(1)			*介護福祉実習Ⅲ	[4]		
				<i>医療的ケア演習Ⅱ</i>	2		
				<i>ユニバーサルデザインの理論と実践</i>	2		
小計	21 (21)	小計	20 (16)	小計	28 (12)	小計	5(3)
備考 ・専門共通科目、専門科目から96単位以上を修得すること。 ・ 太字 は必修科目を示す。 ・立体活字は社会福祉士国家試験受験資格科目を示す。 ・*付立活字は介護福祉士国家試験受験資格科目を示す(社会福祉士国家試験受験資格科目でもある科目には付けていない)。 ・()は介護福祉士国家試験受験資格科目の単位数を示す ・斜体活字は、高齢者・障害者施設従事者をめざす場合に履修することが望ましい選択科目を示す。 ・[]は実習科目の単位数であり、履修小計に含んでいない(下欄履修上の注意参照)。							
履修上の注意 1年間の単位の上限は56単位である。 実習および集中講義は単位の上限の計算に含まない。 4年次の研究ゼミナール履修は、研究ゼミナール4単位を含め30単位以内を単位修得することで卒業要件単位を満たすことを条件とする。							